



モン・サン・ミッシェル外観



聖ミカエル像

フランス北部 “銅”をめぐる追憶の旅

ねこ女優・シネマスタイリスト mic
ミック

「私は銅になりたい」まさか、こんな気持ちになるとは思ってもみなかった。この“追憶の旅を終えるまでは。

「銅について書いてみませんか？」とご依頼を頂き、思いついたのは自分の体型くらい：ズン胸？いやいや漢字が違つ。そもそもズン胸がテーマの随筆なんて誰が喜んでくれようか。色々と思いつらしているうちに、ふと以前訪れたモン・サン・ミッシェルで見たボウルを思い出した。確かあれは銅製だったのでは？

モン・サン・ミッシェルとは、フランス北西部、ノルマンディー地方の世界遺産。聖ミカエルが降り立ったと言われる岩山に建てられた巨大な修道院である。中世の雰囲気が残る建築物に酔いしれながら、その麓を歩いていたら、不思議な音が耳に飛び込んできた。タンタン、タンタン、タタタタ、タン！その軽快なリズムは、レストンから聞こえてくる。厨房では、赤いエプロンがキュートなコックさんが大きなボウルを抱えて、たづぶり入った卵を泡立てていた。その横で、女性シェフがフライパンでオムレツを焼いている。こうして出来上がったのは、驚くなれ約三十センチというジャンボサイズ（四人分！）。黄金色に輝くオムレツが皿に盛りされると、卵の甘く香ばしい匂いが漂ってくる。先ほどまでのモン・サン・ミッシェルの感動はどこへやら一瞬にして目の前のオムレツに心奪われる私。花より団子、モン・サン・ミッシェルよりオムレツ！

その時に印象的だったのが、オムレツもさることながら、ボウルの美しい輝き。数多くのお鍋が厨房の壁に飾られていたり、独特な温かみのある夕陽色が伝統的なレストランの雰囲気

気にびたりだった。調べてみたところ、それらはやはり、銅製。銅のボウルは重さもあり、泡だて器が滑らずに使いやすいのだから。ここでは銅のボウルや鍋を買って帰る方も多いと知って、先に調べておけば良かったと、ちよびり反省……。しかし、こうして調べていくうちに新たな発見が！まだまだモン・サン・ミッシェルには、様々な“銅”が存在していたのだ。

例えば、海に浮かぶシルエットが美しいこの修道院、尖塔の先には金色の聖ミカエル像が



厨房の様子



オムレツ



銅ボウル

我々を迎えてくれるのだが、これは金メッキの銅像で作られている。

他にも、修道院上部にある中庭は緑が溢れる癒しの場。気候が厳しいこの土地で緑を育むことが出来たのも、石の上に銅を敷きその上に土を敷き詰めたからだとか。銅には水などを腐らせないで清潔に保つ力がある為。

こうして、かつて訪れたフランスを、銅のまなざしで見つめ直すと、新たな景色が見えてきた。

私が次に訪れた、港町サン・マロでも、銅は存在した。いや、存在どころか、私にパワーを与えてくれていた。ここはタラソテラピーやリゾート地としても有名で、夏のバカンスシーズ

ンには多くの人で賑わう。

私も旅の疲れを癒すべく、タラソテラピーを受けることに。ちなみにタラソテラピーとはフランスではすでに百年もの歴史がある、海水・海藻・海泥などを利用して行う療法のこと。実際、海泥を体に塗ったり海水のシャワーを浴びたりと、だんだん自分が昆布になつたような気分・・・じゃなくて、とても気持ちがいいのです。こうして海の要素の中に体を委ねることで、体に必要なミネラル・ビタミンを取り入れ身体の機能の回復を促し、体調を整えてくれるのだそう。そもそも、海水の中には、私たちの細胞の働きのために必要な要素が七十五種類以上もあり、銅もその要素のひとつ。そう、私は知らないうちに自分の細胞に銅を取り込んでいた。それだけではない。銅は直接口に入れることで、腸からの鉄の吸収をよくしてくれる働きも。特に牡蠣は銅の含有率が他の食材に比べて抜群に多く、サン・マロでは、そんな牡蠣を扱う海鮮料理のレストランが軒を連ねている。生牡蠣などはレモンを絞って頂くと、ブリップリの食感にフレッシュな味わいがたまらない。つい食べ過ぎてしまった。こうして心地いい海風に吹かれながら、私は銅から生きるパワーを頂いて、心も体もリフレッシュしていたのだ。

こうしてバカンス気分を満喫し、心おきなく帰国の途に就いた私。

旅そのものは、もう五年も前のことになるけれど、こうして銅をめぐる「追憶」の旅に出かけると、まるで初体験のような新鮮さで当時の映像が思い起こされる。そして思った、「私

は銅になりたい・・・」。時に温かな輝きを放ち、時に人の心を癒す影の存在となつて、そして人間を元気にするパワーを秘める。舞台の上立つ人間として、銅のめくるめく七変化に、私はどうやら虜になつてしまつたみたいだ。

ねこ女優・シネマスタイリスト

mic

ミック



mic舞台フィナーレ

第57回読売文学賞(戯曲・シナリオ部門)受賞、菱田信也氏の舞台や楽市楽座の野外演劇に客演するなど、様々な舞台に出演。2004年より自作自演の一人芝居、路地裏ブロードウェイ「ひとりカフェCats」を上演し、「かつて猫だった人間」達のおかしな日常生活を様々なキャラで演じ分け、シニカルな笑いとファッションも話題に。一方、シネマスタイリストとして、

数多くの女性誌・ラジオのレギュラー番組・テレビ出演・映画イベントを通じ、様々な映画を紹介している。現在は、舞台の登場人物を主人公にしたケータイ小説を執筆中。きちんと書き上げればマガジンハウスより掲載予定。予測不能、オリジナルな道を歩むmicの足跡をご覧になりたい方は、<http://www.kazumic.com/cats/>